

金 賞

えがおのために

堀 口 縁

小郡市立 三国小学校

「わあ。微生物できれいにするんだ。」わたしは、六月に宝満川浄化センターに行きました。宝満川浄化センターは、下水道から水を集め、水をきれいにし、川に水を流すまでのことを二十四時間三百六十五日やっています。

わたしが水を川に流すまでの間で、特におどろいたことは、なんども水をきれいにする行程があるということです。まず、下水道から流れてきた水をポンプ場で水をあげます。次に、ちんき池で大きなゴミや土砂をはずめて、とりのぞきます。そして、最初ちんき池で汚水をゆるやかに流して、小さなゴミやどろをはずめます。その後、反応タンクというところで、汚水に微生物の入った活性汚泥というものをまぜます。活性汚泥は水のごれを食べ、水をきれいにし、空気をふきこんで、よれをはずみやすくして下に流してゆきます。最後に最終ちんき池で反応タンクで大きなかたまりになったどろをはずめ、上ずみを流します。そして、きれいになった水は、水質検査室というところで川や海に流せる水かどうかを検査して、消毒設備で消毒をし、やっと川にもどされます。今まで手を洗う時などに流していた水は、こんなにきれいにしないと川にもどせないんだと思いました。

わたしは、宝満川浄化センターの方から、やってほしくないことを教えてくださいました。それは、トイレにトイレットペーパー以外のものは流さないでほしいということと、キッチンのはい水口から油を流

さないでほしいということです。小さいころのわたしは、トイレにトイレットペーパーを流していました。でも、この学習で話を聞いた時に、とても、もうしわけなく思いました。なので、これからは、トイレットペーパーを使って流そうと思えました。そして、前にお母さんたちがキッチンのはい水口から油を流さないのは、どうしてだろうと思っていました。でも、キッチンのはい水口から油を流すと、活性汚泥が死んでしまつて、水をきれいにできなくなります。お母さんたちは、それを知っていたからキッチンのはい水口から油を流さずにキッチンペーパーでふいていたんだなと思えました。もし下水しよ理場がなかったら、自ぜんはくずれ、町じゆうがきたなくなり、病気になるって、死んでしまうかもしれないと思えました。下水しよ理場があるおかげで、わたしは、元気に、病気にもかからず、幸せにくらせているんだなと思えました。

だれかが小さなことをやぶるだけで下水しよ理場の人たちには、大きなふたんがかかることを知りました。だからこれからは、自分一人くらいいいや、ではなくて、自分もルールを守っていいこうと思えました。浄化センターの人達がんばってくれているのは、わたし達のえがおのためなんじゃないかなと思えました。だから自分も水を大切に流して浄化センターの人達のお手伝いをしていこうと思えます。